

地域生活支援学演習

[演習] 第1・2学年 前期 選択 2単位

《担当者名》○鈴木英樹 hideki-suzuki@hoku-iryo-u.ac.jp 長谷川純子

【概要】

地域生活支援学特論で学んだ理解を踏まえ、地域生活者の様々な生活支援場面に対する効果的取り組みの一つとして、多職種連携における実践能力について学ぶ。

【学修目標】

地域の中で多職種連携を果たすための具体的手法を理解する為に、具体的方法やその理論的背景について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	本演習における学習目的や具体的な進め方について理解する。	鈴木英樹 長谷川純子
2～15	地域生活支援における多職種連携	実際の生活課題を取り上げながらその背景要因や具体的対応について他職種の意見を踏まえながら、より良いチーム支援のための自身の役割を理解する。	鈴木英樹 長谷川純子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

講義内での討議への参加状況50%、レポート50%にて判断する。

【教科書】

著：John N. Morrisほか 監訳：池上 直己 インターライ方式 ケアアセスメント 医学書院 2011年

【学修の準備】

毎講義前に、参考文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し学習すること。（予習80分）

講義終了後に、講義での討議内容について整理復習すること。（復習80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、高度専門職業人としてリハビリテーション科学の実践に寄与できる優れた知識・技術と研究能力の基礎を修得するというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

鈴木英樹（専門理学療法士；生活環境支援） 長谷川純子（理学療法士、福祉住環境コーディネーター1級）

【実務経験を活かした教育内容】

地域実践における実務経験を踏まえ、地域住民が抱える生活課題について積極的に意見交換を行う。